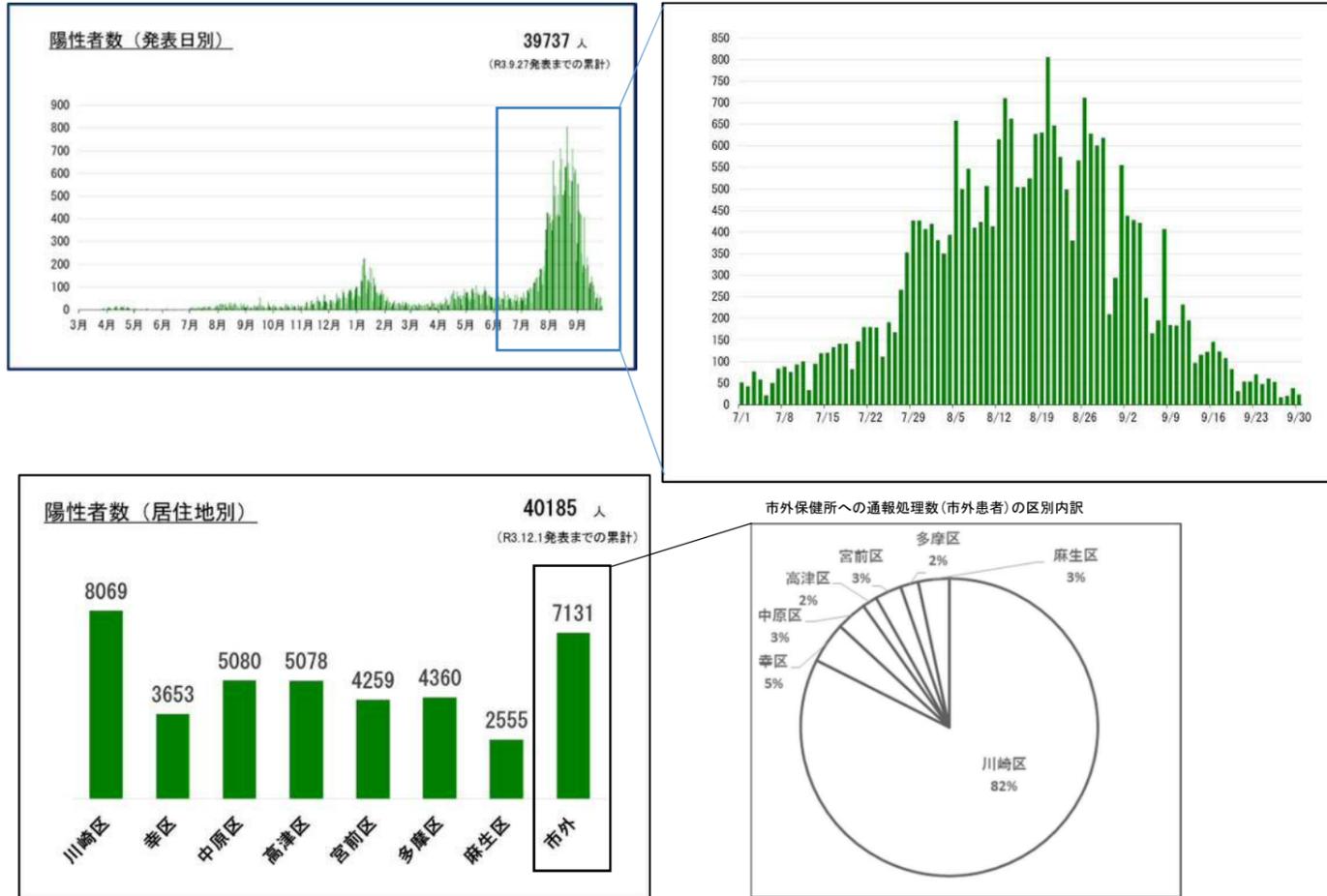


# 新型コロナウイルス感染症第6波に備えた保健所体制について

## 1 感染第5波の状況



- 健康福祉局及び区役所においては、業務委託及び人材派遣の活用他、局・区内の応援体制により対応を図った。
- 自宅療養者の想定外の急増により業務がひっ迫したことを踏まえ、10月に課題の検証を開始した。

## 2 第5波の振り返り

### (1) 区役所へのヒアリング及び関係課長会議における検討

- 10月下旬～11月上旬に区役所ヒアリングを実施
- 11月中旬～12月上旬に全庁の関係課長会議を開催

### (2) 第5波における主な課題

#### ア 派遣職員の増減員のタイムラグ

募集・採用期間のタイムラグによる業務量と人員のミスマッチ

#### イ 委託契約の想定範囲外のボリューム増

短期間で契約の想定を超える業務の急増が発生

#### ウ 人員・作業スペースの不足

派遣職員や業務委託を速やかに増強できなかったこと等による人員、作業スペースの不足

#### エ 区の特長性による独自の課題

感染状況の違い等による独自課題の発生

## 3 第6波へ備えた対応策

### (1) 感染拡大状況に応じたフェーズの設定

○市内感染状況のモニタリング指標を踏まえ、本部会議においてステージ移行の判断と体制の準備を行う。

フェーズ	ステージ2以下	ステージ3	ステージ4
【県】陽性者数（人/日）	～130	131～389	390～2,878 以上
【市】陽性者数（人/日）	～31	32～52	53～806 以上
【市】最大入院者数（人/日）	1	5	11
【市】最大自宅療養者数（人/日）	65	160	3,800

※ステージについては、令和3年10月1日付け厚生労働省事務連絡「今後の感染拡大に備えた新型コロナウイルス感染症にかかる保健所体制の整備等について」を踏まえ、県の陽性者数の推計値等を参考に設定。

### (2) 感染フェーズに応じた業務の重点化

- 積極的疫学調査について、重症化リスク、感染拡大のリスク、社会的関心等を考慮し、ステージ4では対象を重点化する。
- LINEやAIによる健康観察を速やかに開始するため、当日中に行うシステムの入力項目に優先順位をつけ、重点化する。

### (3) 人材派遣・業務委託の最適化

- タイムリーな増減が困難であったという反省点を踏まえ、コストを見極めつつ一定数の安定的な派遣職員の確保を図る。
- 各区における工夫点や反省事項等を踏まえ、業務委託仕様の最適化を図る。

### (4) 本庁への一部業務の集約化

- 療養証明書発行業務を健康福祉局へ集約し、電子申請を活用して発行期間の短縮及び業務の効率化を図る。

### (5) 短期かつ急激な業務の増減に対応する全庁体制の整備

フェーズ	体制	健康福祉局	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	
ステージ3以下	局・区内応援	部内・局内応援体制の実施	地域みまもり支援センター内応援、区役所内応援体制の実施							
ステージ4	局・区内応援	部内・局内応援体制の強化	地域みまもり支援センター内応援、区役所内応援体制の強化							
	全庁応援	港湾局	総務局 企画局 総務課 企画課 総務課 企画課	人事課 総務課 企画課	財政局	まちづくり 緑政局	上下水道局	環境局	市民文化 国際戦略 未来局	経済労働 選挙管理 監査事務 委員会
	専門職応援	総務企画局、環境局、こども未来局、教育委員会								

※応援局の割振りとは令和4年1月～3月の繁忙期等の想定を踏まえて検討。

- 全庁応援の要員数は、ステージ4のピーク時で50名規模を想定する。
- ステージ4については「災害時」に相当するものとして、通常業務の優先順位付けにより応援人員の確保を図る。
- 事前に全庁職員向けの研修やマニュアルの共有等を行う。

## 4 今後の体制の検討

第6波への対応にあたっては、業務量及び効果等の可視化や好事例の横展開など、実践と検証を繰り返すことにより、今後の体制検討へ繋げる。